

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (多文化共生・多様性コース)		訪問国	フィンランド	
学校名	静岡県立静岡東高等学校	氏名	小泉 芽生	学年	3

私は本事業にて、3年生の夏休みの期間を使って、フィンランドのオウルに留学しました。この留学の目的は、「すべての子どもが自分らしく生きられる保育とは何か？」を探究することでした。私は将来、「静岡県でインクルーシブな保育園を作る」という夢を持っています。その実現のために、フィンランドの幼児教育、特に障がいのある子どもやLGBTQ+の子どもたちへのサポートについて学ぶことが必要だと考えました。また、この



留学を決意した背景には、「変わりたい」という強い思いがありました。高校生活の2年間、私は勉強や部活動に追われる日々の中で、将来について漠然と考えるばかりで、具体的な行動を起こせずにいました。そんな自分を変えたいという思いを胸に、「Change→自分が変わり、世界を変える→Challenge!」というタイトルを掲げ、フィンランドへと飛び立ちました。

1 フィンランドで学んだこと

フィンランドに降り立った私が一番に感じたことは、自然の豊かさでした。空気が澄み渡り、どこまでも続く森と湖が広がる風景は、まるでムーミンの物語の世界に入り込んだようでした。静岡にも豊かな自然がありますが、フィンランドの森はさらに広大で、静けさと穏やかさが漂っていました。このような豊かな環境が、人々にゆとりや落ち着きをもたらし、それが教育にも反映されているのではないかと感じました。



現地の幼稚園や小学校を訪問し、実際の授業や保育の様子を見学しました。フィンランドの教育は、日本と大きく異なります。まず、子ども一人ひとりが尊重されていることを強く感じました。障がいの有無にかかわらず、すべての子どもが同じ空間で学び、遊び、支え合っています。先生たちは「できないこと」に目を向けるのではなく、「その子にとっての最善の学び方」を一緒に考えていました。障がいのある子どもに対しても「特別な支援」ではなく、「共に学ぶための工夫」が自然に施されていました。例えば、視覚的なサポートが必要な子どもには、イラ

ストや写真を使った教材が用意され、言葉だけでの説明に頼らない工夫がされていました。フィンランドでは、子どもたちは幼いうちから「違いを受け入れること」を自然に学びます。「誰かと違うことは当たり前であり、大切な個性である」という考えが根付いているため、互いの違いを尊重し、支え合う姿が日常の中にありました。日本では、特別支援教育が進んでいる一方で、障がいのある子どもとそうでない子どもが分けられることも多く、学びの場を共有する機会が限られていると感じます。フィンランドでの経験を通じて、私は「すべての子どもがともに学び、互いの違いを尊重しながら成長できる環境を作ること」の重要性を改めて実感しました。



2 留学を通して得た成長

この留学を通じて、私は「自分を信じることの大切さ」を学びました。フィンランドの子どもたちは、自分の意見をしっかり持ち、それを自由に発言します。先生たちもその意見を尊重し、真剣に耳を傾けます。その姿を見て、私は「もっと自信を持って、自分の考えを伝えなければならない」と気づきました。また、私は「一歩踏み出す勇氣」を持つことの大切さを実感しました。言葉の壁があり、最初は自分の意見を伝えるのが怖かったです。しかし、勇氣を出して話しかけてみると、相手も温かく応じてくれました。自分から行動することで新しい学びや出会いが広がることを強く実感しました。



3 今後の目標

この留学を通じて、私は多くの新しい出会いと貴重な経験を得ました。同世代の仲間とつながるコミュニティに SNS を通じて参加し、また、校内だけでなく県内外で自身の経験を発表する機会にも恵まれました。これらの経験は、私の未来への大きな財産となっています。私の目標は、「すべての子どもが自分らしく生きられる保育園をつくること」です。その実現に向けて、留学で得た学びを新たなターニングポイントとし、大学進学後も探究的な学びを深めながら具体的な方法を模索していきます。そして、障がいのある子どもや LGBTQ+ の子どもたちが安心して過ごせる環境づくりにも積極的に取り組んでいきます。静岡県教育に新しい風を吹かせるために、私はこれからも挑戦を続けていきます。

